

音楽科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00055810

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



音楽科

鏡 千佳子

共同研究者 篠原 秀夫（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるに当たって

本校は昨年度から、「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発—グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して—」を主題に、研究を進めている。これを受け音楽科では、伝統文化に関する授業を通して、他教科とどのように関連し、どのような力を育成できるのかという視点からこれまでの授業を捉え直し、音楽の授業で伝統文化を扱う意義を考えて研究を進めてきた。

昨年度は、雅楽「越天楽」の特徴から、自分が思う「日本らしさ」について考える実践を行った。「日本らしさ」を感じる部分は、人によって異なる。明確な答えは出せないかもしれないが、自分が日本らしいと感じるところはどういうところなのか、何が日本らしさを感じさせているのかを考える良い機会となった。ただ、オーケストラと雅楽の違いやどこに日本らしさを感じるかということは考えることができたが、西洋と日本それぞれのよさを尊重するとともに、日本人が美しいとしてきたものへの愛着をより一層図れるようなところにまでは踏み込めなかった。本校が目指している資質・能力の育成にはやや及ばなかったように感じる。

中学校の音楽の授業で「伝統文化」を扱うということは、そこには必ず意味がある。それは単にその伝統文化に詳しい人材を育てるということではない。その伝統文化が自分の感情やイメージ、生活と結びついたとき、自分にとって価値のあるものとして、何か意味のあるものとして、存在するのではないかだろうか。中学生という多感な時期の生徒が、伝統文化をどう自分の生活と結び付けて考えていくかに迫れるような授業を構築していきたい。また音楽科の目標である、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を目指しつつ、伝統文化教育を通して、伝統文化そのものだけでなく、それらを取り巻く様々な背景や文化、人、そしてこれからの未来を見据えていけるものの見方や考え方ができる生徒を育てていきたい。

2. 能力・態度の育成に当たって

(1) 学校全体として育成する資質・能力について

本校の研究副題「グローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指して」を受けて、今年度は一年生の民謡の授業の取り組みにおいて「①日本の伝統や文化に関する理解」を重視した。今まで歌ってきた歌と民謡の歌い方の違いについて体験を踏まえて学んでいきたい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

民謡を学ぶ上で、その民謡が生まれた背景や地域の特徴などが大きく関連してくる。鑑賞領域の学習では、社会科で様々な地域を学んだ内容が音楽科の授業につながってくると考えられる。また民謡がどのような背景で生まれたかという学習内容が体育科のダンスでの学習に関連していると考えられる。また、曲種に応じた発声を中心とした表現領域での学習では、英語科での学習内容である、場面や相手に合わせた話し方の内容につながると考えられる。

3. 成果と課題

1年生の実践事例（p 83）の授業では、曲種によって歌い方が違うのはなぜかを考えた。様々な曲種による歌い方の特徴をわかりやすくするために、アニメの曲・合唱曲・日本歌曲・民謡を比較した。それぞれの曲で、どんな声で歌っているか、どんな歌い方をしたかについてグループで意見交換をし、次に、なぜそのような歌い方をするのかについて話し合った。生徒から出た意見は、次の通りである。

	アニメ	合唱・日本歌曲	民謡
どんな声？ 歌い方は？	<ul style="list-style-type: none"> ・普段話している声 ・幼い声でかわいい声 ・ほほえましい声 ・地声 ・子供っぽい声 ・自由に歌っている ・元気な感じで歌っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏声 ・大人っぽい声 ・静かな感じ ・清楚系な感じ ・声色を統一させて歌っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・クセが強い ・演歌みたい ・震えた声 ・粘り強い声 ・渋い声 ・太い声 ・芯が入っている声
なぜ？	<ul style="list-style-type: none"> ・曲やアニメの雰囲気に合わせて歌っているから 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで合わせるため ・一つにするため 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁をするときに気合を入れるから ・漁師の歌だから力強くするため

自分たちで歌いながら、どのような違いがあるのかを考えていた。生徒の多くが、曲種に応じた発声があることに気付くことができたようだ。この授業（題材計画の1時目）では、民謡の導入であったため、民謡に関してはほとんど知識がない中で予想している。また、本時で聴いた民謡が仕事歌の「ソーラン節」のみであったため、2時と3時の授業で民謡を実際に歌ったり、様々な地域の民謡の背景を学習したりしながら、さらに課題に迫っていった。今まであまり歌い方を意識したことなかったという生徒が多くいたので、歌い方の違いについて考えることが楽しかったという意見もあった。一口に民謡といっても様々なタイプのものがあり、座敷歌や子守歌ではその用途に合わせた歌い方であることに生徒は気付いていく。答えは一つではない。同じアニメの曲でも歌い方が違うときもある。一時間の授業で正解を出すことが目標なのではなく、これから学習を通して、なぜこんな歌い方なのかと考えたり想像したりすることが大切である。2年時3年時と様々な学習を通して、答えに近づくこともある。また他教科との連携により、学びが深まるこども大いに考えられる。実際に3時の鑑賞の授業では、社会科の学習と結びつけて判断する生徒も多く見られた。この先出合う曲や歌い方で、変わった声だ、変わった歌い方だ、と敬遠するのではなく、なぜこういう歌い方なのかと考えていける生徒を育てていきたい。そして、この授業をきっかけに今まで何気なく歌っていた歌や、身の回りの音楽など、授業と生活とを結び付けて考えていけるような授業を構築していきたい。



実践事例

音楽1年

授業者 鏡 千佳子	授業日 11月23日(金)	
授業クラス 1年2組	関係・連携の考えられる教科等 社会・体育・英語・家庭	
授業内容		
様々な歌を歌ったり、それらの背景を学んだりしながら、曲種に応じた発声があることを知り、曲にふさわしい歌い方を探る。		
教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力	
・様々な曲種の雰囲気を感受しながら曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かした音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持つ。【音楽表現の創意工夫】	①日本の伝統や文化に対する理解	
授業のポイント・流れ		
1. 3～5人のグループを作り、イントロクイズをする。(10) ・ここで使う曲は小さい頃に歌ったことがある歌、合唱曲、民謡など。 ・楽しめて歌える雰囲気づくりを心掛ける。 ・それぞれの曲種で歌い方が変わることに気付かせる。		
2. 本時の課題を知る。 ・どうして曲種によって歌い方が違うのだろう ・小さい頃歌っていた歌と合唱コンクールの歌を比べてなぜ歌い方を変えたのか尋ね、それぞれの背景や特徴から分析する。また、合唱での歌い方で小さい頃歌っていた歌を歌ってみる(合わないことに気付かせる)。(20)		
3. 民謡はどんな歌い方か、再度歌ってみる。 ・合唱の時の歌い方などとはまた違った歌い方であることに気付かせ、なぜこのような歌い方なのかを民謡の作られた背景を基にグループで探る。(10)		
4. 考えを発表する。(8)		
5. 次回はゲストティーチャーをお呼びして、民謡の歌い方を学ぶことを伝える。	(2)	

実践事例

音楽3年

授業者 鏡 千佳子	授業日 6月25日(火)
授業クラス 3年1～4組	関係・連携の考えられる教科等 国語・社会
授業内容	
能と歌舞伎の違いを理解し、能の魅力を探る	
教科等で身に付けたい力（本時について） 能の音楽と歌舞伎の音楽の特徴を比較することでそれぞれのよさや美しさ、特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する。	育成したい資質・能力 ②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度
授業のポイント・流れ	
○本時の課題を知る。(5) ～観能教室に向けて～ 能と歌舞伎の違いを理解し、能の魅力を探ろう	
○能と歌舞伎の音を比較する。(10)	
○気づいたこと、聴こえたことを発表する。(10)	
○能と歌舞伎を視聴する。(5)	
○能と歌舞伎の音楽の特徴から能の魅力を探る。(10) ・能と歌舞伎のどちらが気に入ったかを音楽の諸要素を用いて書くよう言う。 またその際、選ばなかった方のよさも書くことで、両方の魅力に気づかせる。	
○考えを発表する。(5)	
○まとめ 振り返り (5)	

実践事例

音楽3年

授業者 鏡 千佳子	授業日 11月14日(水)	
授業クラス	3年1~4組	関係・連携の考えられる教科等 社会・美術・家庭
授業内容		
<p>雅楽の平調「越天楽」とオーケストラ版と比較することで、楽器の音色の違いやテンポの変化、指揮者の有無などに気づき、日本の音楽の特徴の一つである「ずれ」や「ため」を感じ取りながら、日本人が大事にしてきた空間や余白、間、などを美しいと思う心に気づく。</p>		
教科等で身に付けたい力（本時について）	育成したい資質・能力	
音楽を形づくっている音色、速度、テクスチュア、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、解釈したり価値を考えたりし、鑑賞する	②伝統文化への理解に基づいた多様な文化を尊重する態度	
授業のポイント・流れ		
○前時を振り返る。(5) ・楽器、ずれ、ためなど特徴を振り返る。		
○本時の課題を知る	「越天楽」のよさを味わい鑑賞しよう	
○「越天楽」を聴き比べる。(20) ・オーケストラ版を聴く ・雅楽版を聴く ・特徴を確認しながら「越天楽」を聞くよう伝える。 ・オーケストラ版「越天楽」を流し、違いに気づかせる。 ・雅楽版と何が違うか挙げさせる。 ・雅楽版と聞き比べて確認する。		
○音楽の特徴から日本らしさについて考える。(10) ・どちらがより日本らしいと感じたかを尋ねる。 ・人はどういうところで日本らしい(らしくて美しい)と感じるのかを考えさせる。		
○考えを発表する。(5) ・日本の音楽の特徴と普段の生活と似ているところはないか聞く ・例) 日本と西洋の庭、和食の盛り付け方		
○「越天楽」を聴く(10) ・最後に日本の音楽の特徴を感じながら「越天楽」を聞く。		
		